

日本初！ファン・ゴッホ美術館との国際共同プロジェクト

ゴッホ展 巡りゆく日本の夢

ゴッホは日本から如何なる影響を受け、如何なるイメージを描いたのか。
国内外から厳選したファン・ゴッホ作品約 40 点と浮世絵など約 50 点を展示。
近代日本の知識人、約 240 人がゴッホゆかりの地を訪れた記録「芳名録」を日本初公開！

～2017年8月26日（土）北海道立近代美術館から全国3会場を巡回～

日本初となる、オランダのファン・ゴッホ美術館との国際共同プロジェクト「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」を、2017年8月26日（土）より北海道立近代美術館にて開催します。その後、2017年10月24日（火）より東京都美術館、2018年1月20日（土）より京都国立近代美術館にて順次開催します。

本展は、企画の立ち上げから6年に渡る準備期間を経て、オランダと日本の監修者・学芸員が共同して作品選定を行ってきました。日本展の開催終了後、ファン・ゴッホ美術館にて同展覧会が開催されます。

ファン・ゴッホは、浮世絵をはじめとする日本美術から大きな影響を受け、生涯にわたってさまざまな作品を描きました。

本展では、「ファン・ゴッホのジャポニズム」、「日本人のファン・ゴッホ巡礼」の二部に分けて構成し、ファン・ゴッホと日本の関係性を両方向から検証します。

第一部では、国内外のコレクションより厳選した約40点のファン・ゴッホ作品を通じて、ファン・ゴッホが日本からどのような影響を受け、その思いを作品に投影したのかを表現するとともに、ファン・ゴッホが日本に魅了されるきっかけとなった浮世絵を含む日本美術作品、約50点を展示します。

第二部では、近代日本の知識人、約240人がファン・ゴッホ終焉の地オーヴェールを訪れた記録を残した「芳名録」を日本初公開するとともに、その巡礼の実相を約90点の豊富な資料から辿ります。

日本を夢想したファン・ゴッホと、ファン・ゴッホに憧憬した日本人。交差する夢の軌跡を辿る本展にご期待ください。

フィンセント・ファン・ゴッホ 《花魁（溪斎英泉による）》 1887年、油彩・綿布、ファン・ゴッホ美術館（フィンセント・ファン・ゴッホ財団）蔵
©Van Gogh Museum, Amsterdam (Vincent van Gogh Foundation)



日本初公開!



フィンセント・ファン・ゴッホ 《ポプラ林の中の二人》 1890年、油彩・カンヴァス、シンシナティ美術館蔵（メアリー E. ジョンストン遺贈）
© Cincinnati Art Museum, Bequest of Mary E. Johnston, 1967.1430

■第一部：ファン・ゴッホのジャポニスム

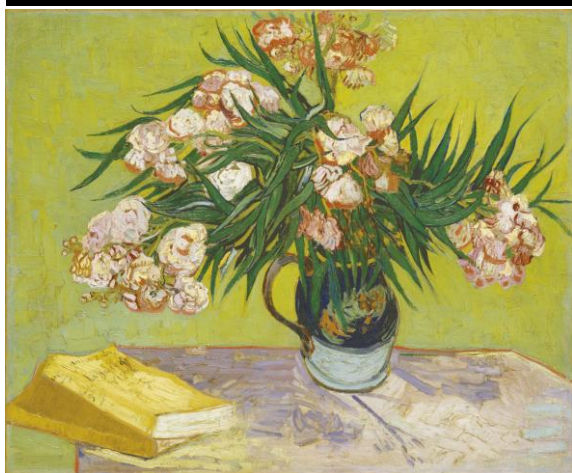
～日本初公開作品を含むファン・ゴッホ作品約 40 点と、ファン・ゴッホが影響を受けた浮世絵など約 50 点を同時に展示～

ファン・ゴッホはパリの画商店で大量の浮世絵と出会い、その鮮やかな色彩や質の高さに魅了され、肖像画の背景に描き込むほどに大きな影響を受けました。

第一部では、ファン・ゴッホが描いた浮世絵の模写や、構図や色彩の表現様式、理想郷として夢見ていた日本のイメージを反映した作品など、さまざまな角度からファン・ゴッホ作品への日本の影響をひも解きます。

国内外のコレクションより厳選した《タラスコンの乗合馬車》、《雪景色》など 4 つの日本初公開作品を含む約 40 点のファン・ゴッホ作品を通じて、ファン・ゴッホが日本からどのような影響を受け、作品に投影したのかを多角的に検証するとともに、日本に魅了されるきっかけとなった浮世絵をはじめとする日本美術作品を約 50 点展示します。

日本初公開!



フィンセント・ファン・ゴッホ《夾竹桃と本のある静物》1888年、油彩・カンヴァス、メトロポリタン美術館蔵©The Metropolitan Museum of Art. Image source: Art Resource, NY

日本初公開!



フィンセント・ファン・ゴッホ《タラスコンの乗合馬車》1888年、油彩・カンヴァス、ヘンリー&ローズ・パールマン財団蔵（プリンストン大学美術館長期貸与）
©The Henry and Rose Pearlman Collection / Art Resource, NY
※札幌、東京の2会場のみ展示

日本初公開!



フィンセント・ファン・ゴッホ《雪景色》1888年、油彩・カンヴァス、個人蔵

着物姿の女性と思われる絵が右奥に描かれている



フィンセント・ファン・ゴッホ、《カフェ・ル・タンブランのアグスティーナ・セガトリー》1887年、油彩・カンヴァス、ファン・ゴッホ美術館（フィンセント・ファン・ゴッホ財団）蔵
©Van Gogh Museum, Amsterdam (Vincent van Gogh Foundation)

■第二部：日本人のファン・ゴッホ巡礼

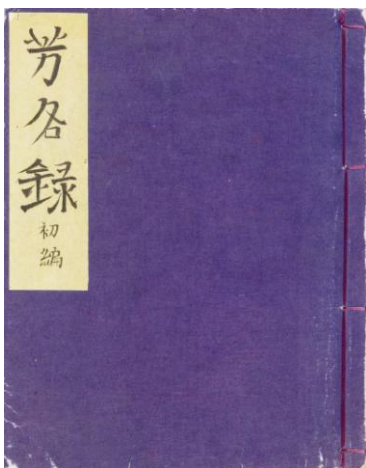
～日本初公開！ファン・ゴッホゆかりの地を訪れた約 240 人の近代日本の知識人が記した「芳名録」と巡礼の実相を約 90 点の豊富な資料からたどる～

ファン・ゴッホは 1890 年にこの世を去りました。ファン・ゴッホの最期を看取った、医師ポール＝フェルディナン・ガシエとその一家は、残されたファン・ゴッホの作品の多くを大切に所蔵していました。

ファン・ゴッホの死後、故人の生涯や作品に強い憧れを抱いた日本の小説家や学者、美術家たちは、ファン・ゴッホ終焉の地オーヴェールにあるガシエ家を訪れ、その記録として「芳名録」に名前を残し、240 人あまりの日本人が故人の軌跡を巡りました。

第二部では、フランスのギメ東洋美術館に所蔵されている 3 冊の「芳名録」を日本初公開するほか、近代日本の知識人たちが訪れたオーヴェール巡礼の実相を、約 90 点の豊富な資料からたどります。

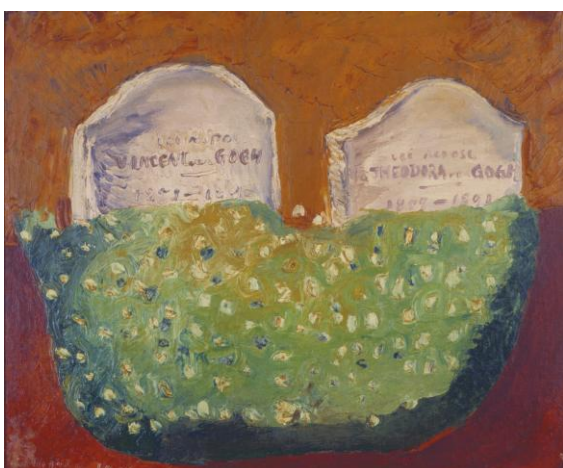
巡礼によって描かれた日本近代絵画の名作、洋画家・佐伯祐三の《オーヴェールの教会》、前田寛治の《ゴッホの墓》をはじめ、当時の写真や手紙などの資料、日本画家・橋本関雪がガシエ家訪問時に撮影した貴重な映像もあわせて公開します。



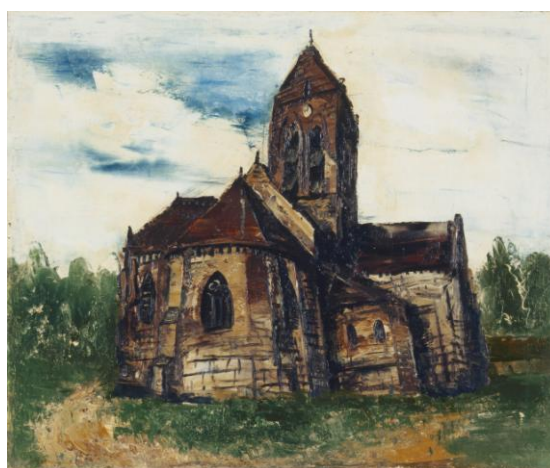
日本初公開!



フィンセント・ファン・ゴッホ《ガシエ博士の肖像》1890年、エッチング・紙、東京藝術大学大学美術館蔵
東京はブリヂストン美術館所蔵作品を展示



前田寛治、《ゴッホの墓》1923年、油彩・カンヴァス、
個人蔵（鳥取県立博物館寄託）



佐伯祐三《オーヴェールの教会》1924年、油彩・カンヴァス、
鳥取県立博物館蔵

■「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」 展覧会 開催概要

【札幌展】 会期：2017年8月26日（土）～10月15日（日） 会場：北海道立近代美術館
主催：北海道立近代美術館、北海道新聞社、NHK札幌放送局、NHKプラネット北海道
開館時間：9:30～17:00 ※会期中の金曜日は19:30まで（入館は閉館の30分前まで）
休館日：月曜日（9/18、10/9を除く）、9月19日（火）、10月10日（火）
問い合わせ：011-644-6882
観覧料：一般1,500円（1,300円）、高大生800円（600円）、中学生600円（400円）、
小学生以下無料（要保護者同伴）
※（ ）内は前売りと10人以上の団体料金 ※前売り券は4月4日（火）発売予定

【東京展】 会期：2017年10月24日（火）～2018年1月8日（月・祝） 会場：東京都美術館
主催：東京都美術館、NHK、NHKプロモーション
開室時間：9:30～17:30
※会期中の金曜日、11月1日（水）、2日（木）、4日（土）は20:00まで
（入館は閉館の30分前まで）
休室日：月曜日（1/8を除く）年末年始休館 12月31日（日）、1月1日（月・祝）
問い合わせ：03-5777-8600（ハローダイヤル）
観覧料：一般1,600円（1,300円）、大学生・専門学校生1,300円（1,100円）、
高校生800円（600円）、65歳以上1,000円（800円）
※（ ）内は前売りと20人以上の団体料金 ※中学生以下は無料

【京都展】 会期：2018年1月20日（土）～3月4日（日） 会場：京都国立近代美術館
主催：京都国立近代美術館、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、京都新聞
開館時間：9:30～17:00（入館は閉館の30分前まで）
休館日：月曜日（2/12を除く）、2月13日（火）
問い合わせ：075-761-4111
観覧料：一般1,500円（1,300円）、大学生1,100円（900円）、高校生600円（400円）
※（ ）内は前売りと20人以上の団体料金 ※中学生以下は無料

展覧会公式サイト <http://gogh-japan.jp>

【本件に関するお問い合わせ先】

「ゴッホ展」広報事務局（プラチナム内） 担当：金、阿部、森

Tel: 03-5572-7351 Fax: 03-5572-6075 E-mail: gogh-japan.pr@vectorinc.co.jp